

3 班 平和学習成果発表

3 班グループメンバー

- ・ 豊科南中学校 小寺 希美
- ・ 豊科北中学校 望月 隼人
- ・ 穂高東中学校 逸見 百花
- ・ 穂高西中学校 荒井 星璃
- ・ 三 郷中学校 三村 佳子
- ・ 堀 金中学校 田中 那月
- ・ 明科中学校 佐々木 千紗

松本大学 平和創造研究会 渡邊 優月



グループの学習テーマ 『原爆の規模と被害』

原子爆弾

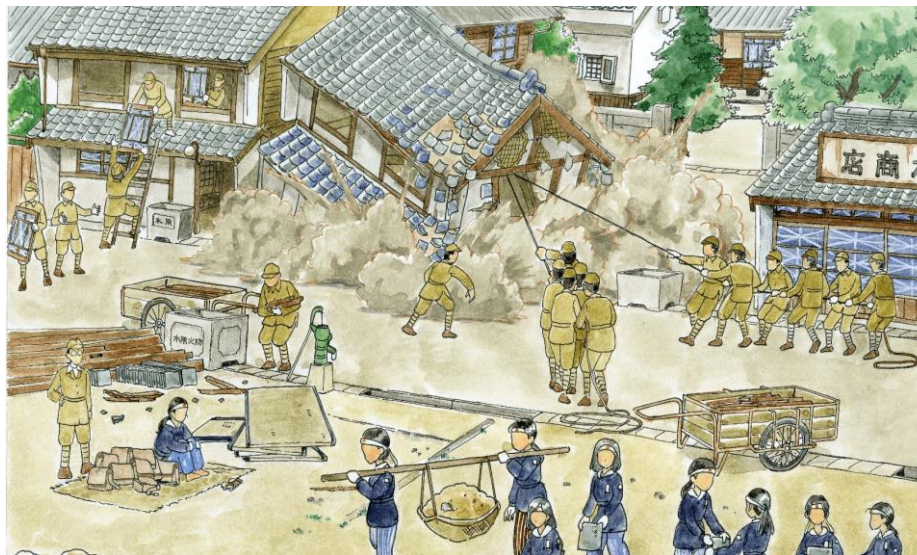
核分裂反応を利用し非常に大きな爆発を起こす。

被害

- 1 熱線
- 2 爆風
- 3 放射線

建物疎開

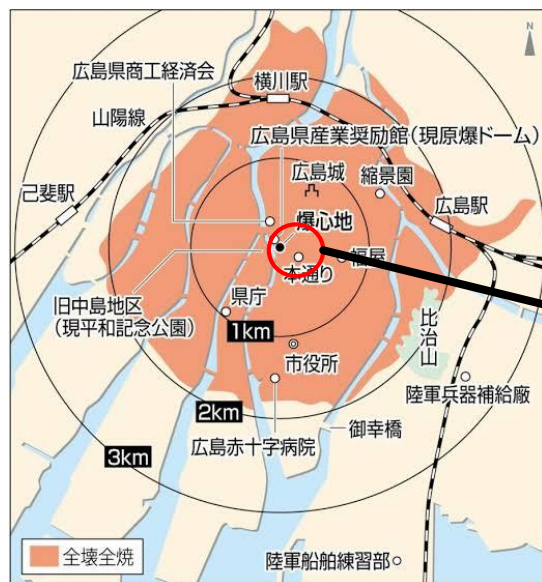
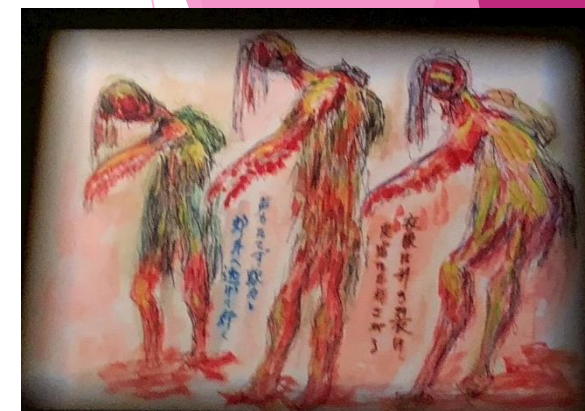
- ・中学生も動員
- ・火災による延焼防止
- ・建物を強制的に取り壊し
空き地を作る



参考：中国新聞デジタル

熱線による被害

- ・爆心地の温度 3,000度～4,000度
- ・爆心地から約3.5km以内にいた人々の
ほとんどがやけどを負った。



※広島市の原爆被災状況市街説明図から



「人影の石」



火傷の治療をしてもらう少年

参考：ユネスコ「世界の記憶」登録候補

爆風による被害

- ・ 鉄骨も折れ曲がってしまう程の強さ
- ・ 爆心地から2km以内の家屋の
ほとんどはほぼ全壊
- ・ 崩れた建物の下敷きになる
- ・ 割れた窓ガラスが目に入り失明する人も



クイズタイム

Q1 広島への放射線はどれほどの威力があったか。

- A) 100sv (即死)
- B) 50sv (壊死)
- C) 10sv (1~2週間で多数が死亡)
- D) 4sv (放射線病, 半数が死亡)

※放射線の線量単位 (SV : シーベルト)

クイズタイム 正解

Q1 広島への放射線はどれほどの威力があったか。

- A) 100sv (即死)
- B) 50sv (壊死)
- C) 10sv (1~2週間で多数が死亡)
- D) 4sv (放射線病, 半数が死亡)**

正解 D

※放射線の線量単位 (SV : シーベルト)

放射線の被害

- **急性障害**（早期に体に現れる症状）
 - ・ 高熱，出血，吐き気，脱毛症状
- **後障害**（年月を経て体に現れる症状）
 - ・ ケロイド（熱傷跡が盛り上がる症状）
 - ・ 白血病，がんの発生確率の上昇
 - ・ 染色体異常
 - ・ 神経症（集中力低下，疲労感など）



放射線により髪の毛が
抜けてしまった姉弟
参考：平和記念資料館より

クイズタイム

Q2 現在、世界に12,121の核があり、すぐ使える核は3,904ある。この3,904の核が投下された場合、国家として機能を失う国は何か国あるか。

- A) 10か国未満
- B) 50～80か国
- C) 100～150か国
- D) 190か国以上

クイズタイム 正解

Q2 現在、世界に12,121の核があり、すぐ使える核は3,904ある。この3,904の核が投下された場合、国家として機能を失う国は何か国あるか。

- A) 10か国未満
- B) 50～80か国
- C) 100～150か国
- D) 190か国以上**

正解 D

原爆詩

げんしばくだん（坂本 はつみ）

げんしばくだんがおちると
ひるがよるになって
ひとはおばけになる

（出典：『原子爆弾の雲の下より』 青木書店）

学んだこと・伝えたいこと

- ・ 何気ない日常の大切さ
- ・ 被爆者は被爆体験を話す度に辛い過去を思い出している。
- ・ 被爆者の声を途絶えさせてはいけない。
- ・ 原子爆弾の恐ろしさを後世に伝え続けていく必要がある。

感想

私は広島に行く前、80年前の広島の出来事を細かく知りませんでした。調べて画像をみるだけでは分からない、核の恐ろしさやどれだけの人がどれだけ傷ついたかを実際広島へ行行って、目で見て耳で聞くことで多くのことを学びました。被爆者の話を聞く機会や広島平和記念資料館を訪れる貴重な体験を機に、自分たちの言葉で二度とこのようなことを起こしてはいけないと伝えるべきだと思いました。私たちにでもできる、世界や日本が平和になるための活動を、これからも少しずつできたらいいなと思いました。

小寺希美

広島を訪れる前は、復興にかかる時間がとても長いと思っていたのですが、実際に資料を見てみると、思っていたよりも早かったことに驚きました。「人影の石」について、そこに座っていた人は蒸発してしまっただけではなく、遺体は残っており収容されたことが分かりました。実際に行ってみると、教科書を読んだだけでは分からないようなことをたくさん知れたので、行けて良かったです。

望月隼人

私は広島を修学旅行で一度訪れましたが、今回の広島平和記念式典参加事業で訪れた広島とは大きく異なりました。80年前のあの日、ではなく80年前の今日（8月6日）、そんな特別な日に広島の土地に足を運ぶこともできたし、現地に行ってたくさんの平和への声も聞けたので、いままで聞いた声を途絶えさせないように私たちが繋いでいこうとも思えました。

逸見百花

広島に原爆が訪れた日に現地を訪れ、想像を超える悲惨な現実に大きな衝撃を受けました。戦争の恐ろしさと平和の尊さを心から感じ、こんな悲劇は二度と繰り返してはならないと思いました。この体験を通して、広島のことを多くの人に伝えていきたいと強く思いました。

荒井星璃

8月6日に原子爆弾が落ち、平和の日常から一瞬にして奪われ今でも苦しんでる人が沢山います。そして、このことを伝える人が居なくなっています。なので私は、この現実を知らない人たちに伝えていきたいと思いました。

佐々木千紗

私は、広島を訪れるのは初めてでしたが、原爆の印象は非常に強烈でした。広島平和記念資料館に展示されている数々の写真や遺品を見て、原爆の恐ろしさやその後の復興について深く考えさせられました。特に被爆者の証言や、当時の状況を伝える資料はただの歴史の一部としてではなく、私たち一人ひとりが平和の重要性を再認識しなければならないという強いメッセージを感じました。今後も平和を守るためにできることを少しでも実行していこうと思います。

田中那月

この学習会に参加するまで広島で原爆が落ちたことを過去としてしか考えていませんでした。ですが、学習会や広島への訪問を通して、原爆の悲惨さ、今も原爆が落ちる可能性があることを知りました。これから学んだことを活かして生活していきたいと思います。

三村佳子

ご清聴ありがとうございました